

第 103 回大腸癌研究会学術集会 大腸癌化学療法委員会 議事録（福井）

2025/07/03（木）13 時 30 分～14 時 30 分 ハイブリット開催

○参加者（委員、発表者のみ記載、以下敬称略）：

現地参加：石川敏昭 掛地吉弘 馬場英司 篠崎英司 杉本直俊 森脇俊和 高島淳生 安部紘生 梶原由規 植竹宏之 寺石文則 他

WEB 参加：島田安博、他

<検討内容>（下線部は前回委員会より進捗があった内容）

1. 研究進捗報告（HP 掲載スライド 1 枚目参照）

1.1 レゴラフェニブおよび TAS-102 以外の標準治療薬に不応/不耐となった治癒切除不能大腸がんに対するレゴラフェニブ単独療法と TAS-102 単独療法を比較する多施設共同観察研究（REGOTAS）：森脇

→主解析論文文化済、付随研究を 7 つ実施し 6 研究は論文文化済、1 研究は Oncologist 投稿中

1.2 実臨床における治癒切除不能進行再発結腸直腸癌に対する初回治療としての FOLFOXIRI/FOLFOXIRI+Bevacizumab 療法の効果と安全性を評価する多施設共同観察研究（TRIPON）：森脇

→主解析論文 IJCO 掲載済

1.3 RAS 遺伝子野生型の治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する、一次治療での抗 VEGF 抗体薬または抗 EGFR 抗体薬併用療法の有効性を腫瘍占居部位別に比較する観察研究：高島

→主解析論文文化済、付随研究 4 件 3 件論文文化中（①腫瘍奏効/非奏効例における抗 EGFR 抗体薬 vs. BEV [左側原発例]、②高齢者における抗 EGFR 抗体薬 vs. BEV [左側原発例]、③初回治療としての Doublet chemotherapy とセツキシマブあるいはパニツムマブとの併用療法の有効性の比較 [IJCO 投稿中]）、④原発巣の病理組織学的特徴を基軸とした切除不能進行・再発大腸癌における予後解析と薬物療法の有効性の比較に関する研究。中央一括審査承認、各施設での実施許可後にプレパレートを収集予定 [HP 掲載スライド 3 枚目参照]

1.4 高齢者 Stage III 大腸癌に対する術後補助化学療法の現状調査（多施設共同観察研究）（MOEST）：石川（HP 掲載スライド 3-枚目参照）

→81 施設より 3,739 例登録、解析対象 3,730 例→解析中。結果公表について登録数上位 5 施設で検討していく。施設名や責任医師の変更があったので研究計画書の最終変更を行う。

1.5 切除不能進行・再発大腸癌における希少なサブタイプの診療実態と治療成績を評価する多施設共同観察研究：高島

→倫理委員会へ PRT 提出し承認。参加施設を募集し中央一括審査予定。KRAS G12C 変異のコホート追加予定。

1.6 その他（新規研究提案など）

→薬物療法による早期有害事象リスクと肝容量の関連に関する研究：岩井（日本医科大学）肝予備能や肝障害マーカー等との関連性について検討していく。